

第50号 (2023年度)



金沢

国際親善ニュース



金沢市代表団ナンシー市派遣 姉妹都市提携50周年記念合意書調印



ナンシー市代表団来沢 金沢市長表敬訪問

金沢市姉妹都市交流委員会

金沢市・ナンシー市姉妹

2023年、両市は提携50周年の節目を迎え、半世紀にわたる友好を祝い、様々な記念事業を実施しました。

金沢市代表団 ナンシー市訪問

2023年9月25日(月)から9月27日(水)の日程で、村山卓金沢市長および高誠金沢市議会議長(金沢市姉妹都市交流委員会会長)をはじめとする代表団がナンシー市を訪問しました。

9月27日にナンシー市庁舎にて開催された提携50周年記念式典では、両市の関係者や市民、総勢120名が見守る中、村山市長とクラン市長が、半世紀にわたる両市の交流の歴史を確認するとともに、今後の交流の促進に向け新たな合意書に調印しました。2014年から協定を締結している金沢市立病院とロレーヌ地域圏立ナンシー大学病院も合意書の更新を行いました。また、代表団の訪問に合わせ、料理人団、金箔職人団、能面修復団が派遣され、市民交流を深めるとともに、50周年の節目に一層の彩りを添えました。

なお、ナンシーでの行程を終えた村山市長は、パリの現地旅行代理店や在仏日本大使館を訪問し、誘客や金沢の魅力発信のため懇談を行うとともに、ゲント市を訪問し、マティアス・デクレルク市長やクリストフ・パーテルス議長と懇談を行いました。

〔金沢市代表団〕32名
(金沢市)

村山卓金沢市長、市職員4名、同行記者1名
(金沢市議会)

高誠議長(金沢市姉妹都市交流委員会会長)、
下沢広伸市議、喜多浩一市議、
坂本泰広市議、市職員1名

(金沢市立病院)

高田重男管理者、大石尚毅消化器内科長、研修医2名
(料理人団)

日本料理つば甚料理長 川村浩司氏
株式会社金城樓 代表取締役社長 土屋兵衛氏
(金箔職人団)

金沢金箔伝統技術保存会会長 松村謙一氏
金箔職人 松村千佳氏、市職員1名

(能面修復団)

能面修復師 後藤祐自氏

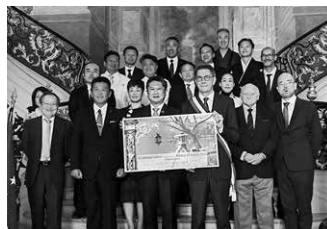
金沢能楽美術館学芸員 山内麻衣子氏

(金沢日仏協会)

竹村裕樹会長、神谷佳男副会長ほか有志8名



50周年記念式典の様子



式典後の記念撮影

〔主な日程〕

- 9/25 ナンシー市着
- 9/26 ナンシー大学病院訪問
植物園、ナンシーテルマル視察
ナンシー国立高等美術学校(ENSAD)訪問
- 9/27 ナンシー市長表敬訪問
提携50周年記念式典
アーバンループ視察
金沢日仏協会主催市民交流会
縁付金箔記念講演会
ストラズブル総領事館記念レセプション
- 9/28 パリ現地旅行会社・在仏日本大使館訪問、
フランス水泳連盟役員懇談
- 9/29 ゲント市庁舎・議場視察、歓迎レセプション
- 9/30 ゲント市内視察
- 10/1 帰沢



ナンシー市長表敬訪問



レセプション時の記念撮影(ゲント)

食文化交流

料理人の2名は、ナンシー市のシェフと交流しながら、金沢の郷土料理「えびす」や「鰻巻き」を制作し、記念式典後のカクテルパーティーにて参加者に伝統の味を振る舞いました。各レストランでは、出汁の取り方や野菜の飾り切りなどの実演を行い、シェフ同士で技術交流を行いました。また、川村料理長は、ホテル業・調理専門のスタニスラス高校でも、日本料理の講義と実演を行いました。



本市料理人による一品紹介

縁付金箔 講演会

金箔職人の2名は、9月27日、市庁舎で行われたスタニスラス広場世界遺産登録40周年を記念した講演会で、縁付金箔の歴史や特徴に関する講演と実演を行い、高い関心を集めました。26日には、ナンシー国立高等美術学校でも講演・実演を行いました。



市庁舎での縁付金箔実演

都市提携50周年記念事業

能講演・能面修復指導

能面修復団の2名は、9月26日、ナンシー国立高等美術学校で能装束や能面に関する講義を行い、学生たちは奥深い能の世界に魅了されていきました。その後、パリ郊外にあるナンシー市の文化財修復士の工房にて、本市ゆかりの能面の修復指導にあたりました。



ENSAD での能の講演

金沢日仏協会による日本文化紹介

金沢日仏協会は、9月27日、ナンシー市内の文化施設にて、交流を続けるロレーヌ日仏協会とともに、生け花や加賀友禅の体験や着物ショーを行いました。会場に集まった約30人の参加者は、金沢の文化に触れ、市民同士の交流を楽しみました。金沢市長も会場へ応援に駆け付けました。



着物の着付体験

ナンシー市代表団 来沢

2023年10月22日(日)から25日(水)の日程で、マチュー・クラン市長をはじめとする代表団8名が来沢しました。クラン市長の来沢は初めてで、滞在中は、高齢者の社会参加に関する施策や創造都市ネットワーク登録都市としての金沢市の取組の説明を受けたほか、金沢美術工芸大学や金沢未来のまち創造館等の視察を行い、担当者と活発な意見交換を行いました。また、代表団を歓迎し、ナンシー市との交流に携わる市民との交流会を開催し、一層の交流を深めました。

〔ナンシー市代表団〕8名

マチュー・クラン 市長 (大ナンシー・メトロポール議長)
 フランソワ・ヴェルネール 大ナンシー・メトロポール第一副議長 (魅力発信、経済・観光担当)
 ナデージュ・ニコラ 副市長 (連帯・高齢者支援担当)
 アントワヌ・ル＝ソルーズ 副市長 (国際担当)
 ステファニー・テン＝エイク 事務総長
 ジル・ゲリエ＝ドゥ＝ドュマ ナンシー大使 (経済・観光)
 永里奈・ルバン 欧州・国際関係課主査
 ヴァンサン・デュボワ 観光局マーケティングマネージャー

〔主な日程〕

- 10/22 金沢着、金沢21世紀美術館等視察
- 10/23 本市施策説明、金沢市長表敬訪問
金沢美術工芸大学等訪問
- 10/24 金沢未来のまち創造館、近江町市場、関係者交流会
- 10/25 金沢発



施策説明を受けるナンシー市代表団



金沢美術工芸大学訪問

ナンシー市ガラスアーティスト受入れ

5月10日(水)から5月22日(月)まで、ナンシー出身のガラス工芸作家ジェラルド・ヴァトラン氏が、卯辰山工芸工房で2週間のアーティスト・イン・レジデンスを行いました。滞在中は工房の研修生らと交流をしながら制作に励み、自身の作品に関する講義や実演も行いました。5月16日(火)には、村山市長から本市の魅力発信に貢献してもらった「金沢創作アンバサダー」に任命されました。



ヴァトラン氏によるワークショップ

日本文化イベント「アニメスト」出展

12月2日(土)、3日(日)にナンシー市で開催された日本文化イベント「アニメスト」に、本市が初出展しました。会場には2日間で8千人が来場し、金沢ブースでは、両市の学生ボランティアらが、金箔や和菓子体験等を通じ、金沢の魅力を発信しました。また、ツエーゲン金沢のマスコット「ナンシー」が初の里帰りを果たし、ブースを盛り上げたほか、11月24日(金)に現地で行われたASナンシーロレーヌ対FCルーアの試合にも応援に駆け付け、サポーターらと交流を楽しみました。



金沢ブースの様子

外国人住民の生活を

外国人児童・生徒のための日本語・学習支援教室「わかたけ」の開催

杜の里と大桑の2地区で、地域団体、国際交流団体、大学生等と連携し、外国につながる子どもたちを対象に、日本語・学習支援教室「わかたけ」を運営しました。

杜の里では原則第4土曜日、大桑では同第1土曜日に教室を開催、毎回10名程度の子どもたちが参加しています。

教室開催時は、外国人住民の生活相談も受け付けています。

地域団体、大学、国際交流団体等の連絡会議を杜の里で1回、大桑で2回開催し、情報共有や意見交換も行いました。



日本語・学習支援教室「わかたけ」（大桑地区）の様子

大桑町平町会と北陸大学日本語ボランティアサークル「つなぐみ」が連携協定を締結

大桑町平町会では外国人世帯が約1割を占め、2022年7月から外国につながる子どもたちの日本語・学習支援教室「わかたけ」を集会所で開催してきました。支援には、北陸大学の学生ボランティアが協力してきており、地域の子どもたちの交流の場所づくりや地域の活性化にも繋がっています。2023年度には、この活動が多文化共生の地域づくりのための金沢市のモデル事業となり、2023年8月5日

(土)には町会と学生日本語ボランティアサークルが連携協定を締結するまでに至りました。

その後、この協定をもとに、町会の夏祭りや防災訓練などにおいて、相互の連携協力が進められています。

【連携の年譜】

- 2022年7月 大桑町平町会の呼びかけによる日本語・学習支援教室の開設
- 2023年5月 北陸大学日本語ボランティアサークル「つなぐみ」の結成
- 2023年7月 関係者連絡会議にて、連携協定締結の決定
- 2023年8月5日 町会と「つなぐみ」の連携協定の締結
- 2023年8月19日 夏まつりの開催における協力
- 2023年10月14日 防災訓練の開催における協力
- 2024年2月10日 スポーツ交流会の開催における協力



連携協定締結式

Topics

外国人キーパーソン連携会議を立上げ

2023年5月24日(水)に、市は、日本在歴が長く、同国コミュニティ内の情報発信の中心役を担う外国人住民のキーパーソン5名(オーストラリア、中国、インドネシア、タイ、ベトナム)と連携会議に立上げ、外国人住民の必要とする情報や取組等について意見交換を行いました。

また、国際化施策に関わる市職員や石川中央都市圏の国際交流担当職員の方を対象として、インドネシアのキーパーソンであるヒクマ・バルバド氏と松井誠二氏のご夫妻に、金沢のインドネシア事情について講演をいただき、多文化共生への取組への一助にしました。



外国人キーパーソン連携会議

外国人住民が参加して防災訓練を実施

2023年10月14日(土)、大桑町平町会の防災訓練が大桑防災拠点広場で実施され、日本人・外国人住民約40人が参加しました。運営においては北陸大学「つなぐみ」の大学生が協力したほか、町会言語サポーターがベンガル語・インドネシア語の通訳を行い、住民は、避難所で必要となる情報カードの作成や簡易ベッドの組み立て、ムスリムの住民も安心して食べられるハラール認証の非常食を用いた炊き出し体験、防災に関する知識の習得等、防災への理解を深めました。



防災訓練の様子

サポートしています

「かなざわ外国人母国語緊急ネット（LINE）」での情報発信

日本語が十分理解できない外国人住民向けに、給付金などの行政情報や地震・大雪などの災害情報を迅速に伝えるため、LINEで情報を配信しています。6言語（英語、中国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、やさしい日本語）対応で、登録者数は440人に達しました。

今年度は、2024年1月に能登半島地震が発生し、本ネットワークでの情報発信が役立ちました。（連携先：金沢国際交流財団、NPO法人YOU-I、外国人キーパーソン連携会議）



市役所窓口での通訳支援

・映像通訳サービス（タブレット端末）
来庁時、音声と映像で通訳センターに接続することで、申請書類や利用者の表情などを見ながら通訳でき、円滑に手続きが行えます。
対応言語：8言語
（英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語）
導入課所：市民課、医療保険課、健康政策課、保育幼稚園課、住居政策課、国際交流課、教育総務課、福祉健康センター（他部署でも対応できる場合があります。）
対応時間：土日祝日を除く日の8：30～19：00（タイ語、ベトナム語、インドネシア語は18：00まで）

・電話通訳サービス
電話でのお問い合わせでも、通訳センターと接続するため多言語で対応が可能です。
（市役所庁舎、市民センター等38課所で対応。対応言語、対応時間は映像通訳サービスと同様）

・ポケット（翻訳機）
カメラを搭載した「ポケット」により、通訳や文書の翻訳にも活用されています。

・多言語ライブラリー
市役所から郵送する国民健康保険料や税金などの文書（申請書、通知など）を順次英訳し、ホームページに掲載しています。



金沢生活ガイドに「やさしい日本語版」が登場！

国際交流課では、外国人市民が生活に必要な情報を得るための多言語情報誌「金沢生活ガイド」を作成しています。これまでの6言語（英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、インドネシア語、ベトナム語）に加え、今回新たに「やさしい日本語版」を作成しました。これは、在住外国人の国籍が多様化する中で、より様々な国の方に読んでもらえるよう、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮した分かりやすい日本語で書いたものです。やさしい日本語版では、基本的な生活情報に加え、金沢の年間行事等を紹介するページや在住外

国人のコラムを掲載するなど、読み応えのあるガイドになるよう工夫しました。
生活ガイドは金沢市役所や市民センター、金沢国際交流財団などで配布しています。

金沢生活ガイド やさしい日本語版



外国人の子育てを応援！

日本語でのコミュニケーションが十分でない外国人母子を支援するため、1歳半、3歳児検診などの「集団健診」や生後3か月頃の赤ちゃんの体重や健康状態を自宅で確認する「赤ちゃん訪問」の際に通訳ボランティアを派遣しています。通訳ボランティアは金沢国際交流財団が実施した研修を受講した市民が参加しており、ボランティアのスキルアップのための研修も行っています。（詳しくは17ページをご覧ください。）

そして、さらに子育てを促進するため、今年度新たに「外国人子育て支援ハンドブック」を作成しました。こちら

は、通訳ボランティアや実際に金沢市で出産、育児を経験した外国人保護者からの意見をもとに制作したもので、やさしい日本語、英語、中国語を併記して記載しています。このハンドブックは、外国人母子に向けて金沢市の保健サービスや手続きを分かりやすく紹介するだけでなく、通訳ボランティアが子育て支援をする際にも活用していく予定です。



かなざわ外国人子育て支援ハンドブック

フェアトレードの理念の普及に向けて

市内のフェアトレード団体などから構成される「フェアトレードタウン金沢推進委員会」が本市との連携のもと、フェアトレードの理念の普及に向けて様々な活動を展開しました。（敬称略）

かなざわフェアトレードフェスタ2023

5月が「フェアトレード月間」で、第2土曜日が「世界フェアトレード・デー」にあたることから、2023年5月13日（土）に「かなざわフェアトレードフェスタ2023」が開催されました。

会場 金沢市役所庁舎前広場
出展団体 34団体
内容 商品紹介、販売、体験など



フェアトレードフェスタ 2023

フェアトレード塾

フェアトレードの理念の普及を図るため、全2回の講座が開催され、のべ75名が参加しました。

〈第1回〉2023年9月17日（日）13:30～15:30

会場 石川県女性センター
内容 「フェアを問う～買うことで応援以外に、今、日本ができることは何か?」

講師 元松山大学経済学部教授 松井名津

〈第2回〉2024年1月21日（日）13:30～15:30

会場 石川県女性センター

内容 「フェアトレード&オーガニックで目指す世界 おいしいチョコが笑顔をつなぐ」

講師 People Tree 鈴木啓美

フェアトレード エシカルマーケットの開催

フェアトレード エシカルマーケットが初めて開催され、フェアトレード商品や環境に配慮された商品が販売されました。

開催日 2023年10月1日（日）10:00～15:00

会場 金沢市役所第二本庁舎

出展団体 34団体



フェアトレード エシカルマーケット

「親子で学ぼう！@姉妹都市公園」開催！

2023年11月11日（土）、駅西新町にある姉妹都市公園において、小学生の親子を対象とした国際理解イベント「親子で学ぼう！@姉妹都市公園」を開催しました。これは、7つの姉妹都市を紹介するコーナーがある、全国でも珍しい姉妹都市公園の存在を知ってもらうこと、また金沢の姉妹都市について理解を深めてもらうことを目的に開催したもので、市民12組33名が参加しました。7人の国際交流員は、参加者を率いて園内の姉妹都市コーナーを案内したあと、写真を見せながら各都市の特徴や地元の名所、美味しい食べ物などを紹介しました。また、子どもたちにはシールラリーに参加してもらい、7つのシールを全部集めた参加者には、姉妹都市のある

国のお菓子をプレゼントしました。

イベント後の参加者アンケートでは、「写真を交えながら各都市を説明してくれて、とても分かりやすかった」、「姉妹都市公園が素敵で、実際に外国に行ってみたくなった」との声が寄せられました。



金沢マラソン2023に姉妹都市から4年振りに5代表団が参加！

コロナ禍により中止されていた、金沢マラソンへの海外ランナーの参加が2019年以来4年振りに再開されたことを受け、5つの姉妹都市からの代表団18名（うちランナー9名）が来沢し、大会に華を添えました。

2023年10月29日のマラソン当日、姉妹都市からの出場者は、13,000人（うち国外約800人）を超えるランナーとともに、村山卓金沢市長の号砲を合図にスタートし、さわやかな秋晴れの中、沿道の熱い声援に力も得て、全員が楽しく走りました。ま

た、ランナー以外の団員においても、都市や国の垣根を超え、参加ランナーが通過するたび声を張り上げて応援するなど、本市の姉妹都市同士の交流も深まることとなりました。

また、表敬訪問の際に、ゲント市から次回のゲント・マラソンへの招待状の手交があり、2024年3月に、金沢市からのマラソン参加団が派遣されることとなりました。

なお、本年度の各市からの代表団の概要と、主な滞在日程は、以下のとおりです。



表敬訪問の記念撮影



歓迎夕食会

【代表団】

都市名	団長	所属等	人数（ランナー）
バッファロー	デイヴィソン ベン	Buffalo-Kanazawa SS	5名（2名）
ゲント	スハーレン パウルヘンリー	市民ランナー	2名（2名）
ナンシー	ベルノ ヴァンサン	市民ランナー	4名（2名）
蘇州	ボウテイ 房締	蘇州市体育競技管理センター副主任	3名（1名）
全州	イデケン 李大根	全州市陸連理事	4名（2名）
合計：5都市			18名（9名）

【主な滞在日程】

日付	内容
10/27（金）	表敬訪問／歓迎会
10/28（土）	コース下見／市内視察（兼六園・ひがし茶屋街等）
10/29（日）	金沢マラソン2023参加／送別会
10/30（月）	各市代表団離沢



マラソン当日の応援の様子

能登半島地震に各姉妹都市から支援

2024年1月1日に発生した能登半島地震を受けて、姉妹都市をはじめ世界各国から多くの励ましのお手紙をいただきました。さらに、姉妹都市各地で支援の輪が広がっています。

ゲント市の金沢・ゲント交流サポーターズクラブは、2024年1月20日（土）～21日（日）にチャリティー・ウィークエンドを開催しました。募金サイトを立上げ、土曜日は金箔貼りや書道など日本文化に触れられる体験イベントを催し、デクレルク市長をはじめとする約150人のゲント市民が来場したほか、日曜日はチャリティーコンサートが開かれ、同サポーターズクラブは抹茶ワッフルを振舞い、支援を呼び掛けました。

ナンシー市からは、クラン市長からビデオメッセージが届き、温かい励ましの言葉をいただくとともに、約162万円（1万ユーロ）の見舞金を送られました。

バッファロー市では、バッファロー・金沢姉妹都市委員会を母

体とする「西部ニューヨーク日本文化センター」が募金サイトを立ち上げ、約53万円（3,660ドル）が集まりました。



（ゲント）
チャリティーイベントで支援を呼びかけ



（バッファロー）
募金サイトでの呼びかけ



（ナンシー）
クラン市長からのビデオメッセージ

国際交流特使養成塾の開催

母国への帰国後もSNSや現地でのイベント等で、海外への金沢の魅力発信を担ってもらう「金沢市国際交流特使」を養成するため、留学生を対象に、金沢の文化を講義や体験を通じて学ぶ「国際交流特使養成塾」を通年で開催しています。

本塾を受講し、基準を満たした留学生は「金沢市国際交流特使」として金沢市長より任命されます。

2023年度は計7回開催し、累計18ヶ国119名が参加しました。また、新たに7名が特使に任命され、特使は累計99人となりました。



〈講座内容〉

- 第1回 5月27日(土)
 テーマ：九谷焼～絵付け体験～
 内容：九谷焼の工房見学、絵付け体験
- 第2回 6月18日(日)
 テーマ：兼六園・金沢城ガイドツアー&抹茶体験
 内容：兼六園・金沢城公園を日本語と英語でガイド、兼六園内で抹茶体験



九谷焼の絵付け体験



金沢城ガイドツアー



はしご登りの練習を見学



治部煮の料理体験



寺町で座禅



氷室の仕込み初め

- 第3回 7月22日(土)
 テーマ：加賀とびはしご祭り保存会設立50周年記念事業特別講座
 内容：加賀とびの歴史についての講義、はしご登りの練習を見学
- 第4回 9月30日(土)
 テーマ：金沢の食文化～治部煮を作ってみよう！～
 内容：食文化についての講義、治部煮の料理体験
- 第5回 11月25日(土)
 テーマ：寺町を知ろう～座禅体験～
 内容：重要伝統的建造物群保存地区である寺町についての講義、座禅体験
- 第6回 1月28日(日)
 テーマ：金沢の冬の文化を体感しよう～氷室の仕込み初め～
 内容：氷室に関する講義、氷室の仕込み体験
- 第7回 2月17日(土)
 テーマ：金沢の美食～和菓子を作ってみよう！～
 内容：和菓子についての講座、和菓子作り体験

姉妹都市サポーターズクラブ連携特使交流事業の開催

姉妹都市交流を支える現地の交流拠点「サポーターズクラブ」などが派遣する海外の若者を受け入れる「国際交流特使養成・短期研修事業」を2015年より行っています。今年度は2月17日(土)に現地サポーターズクラブ会員をはじめ海外の若者を対象に、オンラインで金沢の文化を学ぶプログラムを開催しました。当日は金沢市、アメリカ・バッファロー市、ブラジル・ポルトアレグレ市、中国・蘇州市から合計23名にご参加いただきました。体験では金沢をPRする学生団体「かなざわ娘」が水引について紹介し、ワー

クショップを行いました。その後の交流会も、互いに自分の都市の写真を見せ合うなど、とても盛り上がりました。



水引体験の様子



4か国による交流会

グローバル人材育成セミナー 開催

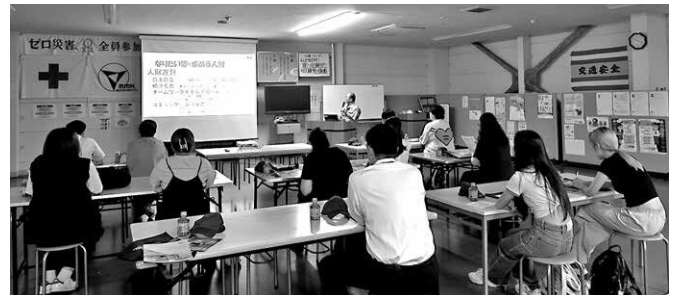
経営者からの講話や元留学生の社員の方等と交流することを通して、留学生や日本人学生等に国際的な感覚を身に付けながら地元企業で働く魅力を知ってもらうため、「グローバル人材育成セミナー」を開催しました。本セミナーには、様々な国からの学生等11名が参加し、経営者や社員の方から現場の熱い思いを直に伺いながら、意見を交わして交流し、各企業の魅力を肌で感じました。

(プログラム)

2023年9月15日(金)

○午前 訪問先：松本機械工業株式会社
内容：松本要代表取締役社長のご講話、工場見学、元留学生の社員の方を交えての意見交換

○午後 訪問先：東振グループ(東振精機・東振テクニカル)
内容：中村俊介取締役会長のご講話、工場見学、元留学生や若手の社員の方を交えての意見交換



松本代表取締役社長によるご講話

国際交流特使による金沢PR活動 在外公館に金沢市ブースを出展

2024年は3か国4公館の天皇誕生日記念レセプションで金沢ブースが設置され、国際交流特使や、元留学生の皆さんが金沢の魅力をアピールしました。

	〈ブラジル〉 在ポルト・アレグレ 領事事務所	〈ベルギー〉 在ベルギー 日本国大使館	〈フランス〉 在フランス 日本国大使館	〈フランス〉 在ストラスブール 日本国総領事館
開催日	2月7日(水)	2月29日(木)	3月28日(木)	3月26日(火)
場所	社交スポーツクラブ 「Sogipa」	駐ベルギー 日本国大使公邸	駐フランス 日本国大使公邸	駐ストラスブール 日本国総領事公邸
派遣者	金沢友の会	金沢・гент交流サポーターズクラブ	元インターン生等	元インターン生等
内容	展示：ポスター、パンフレット等 味覚：地酒、和菓子 体験：金箔体験			



ベルギー大使館で金沢をPRする
金沢・гентサポーターズクラブ

石川中央都市圏・国際交流連絡会を開催！ ～4市2町が国際交流連携の取り組みを強化～

石川中央都市圏(金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町)では連携中枢都市圏を形成し、「石川中央都市圏ビジョン」を推進しています。地域を活性化させて経済を持続可能なものとし、安心して快適な暮らしを営むため、「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことが目的です。2016年度より4市2町の国際交流所管課が連携を強化し、地域の国際交流の推進を図る「国際交流連絡会」を開催しています。

今年度は、連絡会を5月・8月・11月に行ったほか、10月21日(土)から22日(日)に金沢市庁舎前広場で開催された「かなざわ国際交流まつり2023」にブース出展しました。今回のまつりは「いしかわ百万石文化祭2023」の連携

事業ということもあり、当日は4市2町の国際交流員が母国のゲームを通じて海外の文化を紹介しました。



かなざわ国際交流まつりにブースを出展

バッファロー [アメリカ合衆国]



Jazz 交流コンサートで演奏するハンブルグ高校ジャズバンド

提携 1962年（昭和37年） **人口** 28万人
面積 105km²

五大湖のひとつ、エリー湖の東にあり、ニューヨーク州西部の政治、経済、教育、文化の中心地。製鉄・製粉などの工業都市として発展した。市内には、オルブライト・ノックス美術館、州立大学バッファロー校や広大なデラウェア公園があるほか、著名な建築家フランク・ロイド・ライト設計の建物が現存するなど、文化と学術のまちでもある。有名なナイアガラの滝は、北西 25km の所にある。

ハンブルグ高校ジャズバンド 18年振りに百万石まつりで行進！

2023年5月31日から6月5日までの間、ラリー・デュビル教諭を団長とするハンブルグ高校ジャズバンド団21名（団長1名、引率1名、団員19名）が来沢しました。



行進後に金沢城で記念撮影

姉妹都市バッファロー市近郊で、同じエリー郡内にあるハンブルグ高校ジャズバンドは、金沢市内で活動するジュニア・ジャズ・オーケストラJAZZ-21と、姉妹都市交流事業の一環として交流を続けてきました。

今回の来沢は4度目であり、また2005年に初参加して以来、18年振りに、百万石まつりのメインイベント、百万石行列へ参加しました。

行列への参加に先立ち、団は泉野小学校を訪れ、児童の前に演奏を披露したほか、遊学館高校も訪問しました。また石川県高等学校総合文化祭（於：津幡町文化会館シグナス）でも演奏を披露するなど、市内だけでなく、県内各地の青少年と音楽を通じて交流しました。

百万石まつり当日は、初夏の厳しい日差しにも関わらず、観客からの声援にも笑顔で答え、堂々とした演奏を披露しながら、行列の先陣としての役割を果たしました。

行列の翌日は、Jazz交流コンサート（於：石川県教育会館）にて、JAZZ-21・BASICと共演しました。力強い演奏に、観客からは暖かい拍手が送られました。

【主な日程】

- 5/31 来沢
- 6/1 泉野小学校訪問、市長表敬
- 6/2 第43回石川県高等学校総合文化祭出演、遊学館高校訪問、市内視察等
- 6/3 第72回百万石まつり百万石行列出演
- 6/4 Jazz交流コンサート出演
- 6/5 離沢



行列の先頭で行進するジャズバンド

バッファロー・金沢姉妹都市委員会 代表団の来沢

2023年6月1日から6月5日までの間、バッファロー・金沢姉妹都市委員会代表団が来沢しました。団は、2022年の両市の提携60周年を祝うために作られた記念誌を市



金沢市長を表敬訪問する代表団

長に贈呈したほか、ハンブルグ高校ジャズバンドの応援や、金沢大学や中山芽バレエスタジオ等、バッファロー市との交流に携わってきた方々を訪ね、今後の両市の交流について意見交換を行いました。

元バッファロー・金沢姉妹都市委員会会長 道井孝子氏のご逝去



村山卓市長と道井孝子氏
(2022年)

元バッファロー・金沢姉妹都市委員会会長の道井孝子氏が、2023年8月19日に逝去されました。道井氏は、1966年にバッファロー市に移住されて以来、本市とバッファロー市との姉妹都市交流の促進に永年にわたり多大なご尽力をされ、2012年6月の来沢時に金沢市より功労感謝状が贈られました。心よりご冥福をお祈りいたします。

Topics

なかやまめぐみ 中山芽バレエスタジオ一行の市長訪問

2023年12月18日（月）、中山芽バレエスタジオ一行が『くるみ割り人形2023』開催にあたり、村山市長を訪問しました。本公演は、同バレエ団がバ



意気込みを述べる団員

ッファロー市のネグリヤ・バレエ団との交流の中で『くるみ割り人形』の舞台づくりを学んだことがきっかけで開催され、今回は3回目の公演となります。今後のネグリヤ・バレエ団との交流再開が期待されます。

ポルト・アレグレ 【ブラジル連邦共和国】



天皇誕生日祝賀レセプションで金沢市を紹介する「金沢友の会」メンバー

提携 1967年（昭和42年） **人口** 133万人

面積 495km²

ブラジル南部最大の都市で、リオ・グランデ・ド・スル州の州都。豊かな農牧地帯とリオ・デ・ジャネイロに並び良港を持ち、米、ワイン、たばこ、畜産物などの生産のほか、木材、毛織物、金属等の工業も盛ん。四季ははっきりしており、グワイバ川沿いに広がる市街は、美しいパトス湖や街路樹に彩られる。まちの入口では、この地のシンボルのガウーショ（カウボーイ）の像が訪れる人々を出迎えている。

金沢友の会が日本祭りで金沢をPR

例年、ポルト・アレグレ市内で開催される日本祭りの会場内で、金沢ゆかりの市民でつくる「金沢友の会」が、金沢市や両市の友好関係について紹介しています。

ポルト・アレグレ市での日本まつりは、2023年11月17日（金）～19日（日）に記念すべき第10回目を迎えました。



日本祭りで金沢をPRする「金沢友の会」メンバー

金沢友の会は、金箔製品や漆器等の伝統工芸品を展示したほか、ポスターや絵はがきで金沢の観光スポットを紹介しました。また、友の会が自作した灯籠の模型や、アクリルキーホルダーも展示され、来場者は金沢の工芸品や文化の魅力に見入っていたほか、金箔貼り体験のワークショップが人気を博し、多くの参加者を集めました。

金沢友の会のガブリエル・モレイラ副会長は、「今年の日本まつりへの出展は大成功でした。また、今回は友の会としてはじめて、自作の金沢PRグッズを販売することができ、とても嬉しく思っています。」と話しました。

在ポルトアレグレ領事事務所長の来沢

在ポルトアレグレ領事事務所の清水一良所長が2024年3月22日に本市を訪問し、村山市長と懇談しました。同領事事務所長が本市を訪問するのは、2016年に近藤所長（当時）が訪問して以来、8年振り、現所長の初めての来沢となりました。

領事事務所は、毎年、現地で天皇誕生日祝賀レセプションを開催しており、2014年からは金沢市も「金沢友の会」の協力のもと、ブースを出展しています。

清水所長は、能登半島地震へのお見舞いを述べるとともに、今後の本市とポルト・アレグレ市との交流について市長と意見を交換しました。

イルクーツク【ロシア連邦】



イルクーツクのまちなみ（イルクーツク駅）

提携 1967年（昭和42年） **人口** 61万人
面積 277km²

バイカル湖（世界遺産）の西方にあり、東シベリアの政治、経済、教育、文化の中心地。イルクーツク州の州都。天然資源が豊かで、機械、木材、食品などの工業が発達している。アンガラ川沿いに広がる市街は、美しく落ち着いた雰囲気から「シベリアのパリ」とも呼ばれる。市内には、イルクーツク大学をはじめとした学術施設、先端技術の研究所や工場などが数多くあるほか、市民の文化・芸術活動も盛ん。

ドゥルゼンコイルクーツク市議会議員 オディネツ国際交流特使の国際交流課訪問

イルクーツク市の市議会議員、アレクサンダー・ドゥルゼンコさんと、イルクーツク在住の国際交流特使、セルゲイ・オディネツさんが、2023年12月11日（月）に石川県ロシア協会の石坂理事長、長谷川事務局長、金沢市ロシア協会の宮前会長とともに国際交流課を訪問しました。

オディネツさんは、2015年に金沢市中学生親善団がイルクーツクを訪れた際に現地随行役を務めたほか、現在はイルクーツク日本情報センターの所長・バイカル友好協会のメンバーとして、日本や金沢の魅力発信に尽力しています。

オディネツさんは、野田山の「ロシア人墓地」の維持管理がなされていることへの感謝や、自身がイルクーツク州内の日本人墓地の維持管理に努めている旨などを話したほか、「自分は、金沢を訪れるのも、金沢から人を迎え入れるのも嬉しい。個人訪問という形で、ぜひまたイルクーツクを訪れてほしい。」と、市民レベルでの交流についての意欲を語りました。

当日は金沢市議会では本会議が開催中であつたことから、両氏と石川県・金沢市ロシア協会役員は議会を傍聴しました。



ドゥルゼンコさん、オディネツさん来訪

Topics

日口沿岸市長会担当課長会議に参加

ロシアと交流のある6県11市で構成される日口沿岸市長会（代表幹事・新潟市長）の担当課長会議が、2023年7月27日（木）に新潟市東京事務所で開催され、直接交流が難しい中、状況を注視し、情報交換など、会として連携していくことを確認しました。

金沢市ロシア協会が国際交流まつりに参加

金沢市ロシア協会は、2023年10月21日（土）、22日（日）に開催されたかなざわ国際交流まつりに参加し、金沢市とイルクーツク市の交流のあゆみをパネルで紹介したほか、出版物の配布を行いました。特に石川のロシア人墓地に関する冊子がよく持ち帰られており、関心の高さがうかがえました。

新任の在新潟ロシア連邦総領事がロシア人墓地を訪問

2023年12月5日（火）、ユリー・ステパノフ在新潟ロシア連邦総領事が、金沢市ロシア協会の案内で、野田山の「ロシア人墓地」を訪問し、献花を行いました。

在新潟ロシア連邦総領事は、毎年県内の「ロシア人墓地」を訪問しています。現総領事は2023年6月に着任され、今回が総領事に就任以来初めての訪問となりました。

総領事は来沢に先立ち、12月4日（月）に石川県ロシア協会の案内で能登町の「ロシア人墓地」も訪問し、同じく献花を行いました。

石川県ロシア協会が石川県庁で写真展開催

石川県ロシア協会は、2024年3月16日～25日にわたり、石川県庁19階展望ロビーにおいて、姉妹都市イルクーツク市の風景を紹介する写真展を開催しました。

写真展は「厳寒の風景—イルクーツク」と題され、現地在住のアレクサンドル・シューディキン氏が撮影した、イルクーツクの冬の姿をおさめた約80点の写真が展示されました。

ゲント 【ベルギー王国】



ゲント市のまちなみ

提携 1971年（昭和46年） **人口** 27万人

面積 156km²

フランダース地方の中心都市で、今も中世の面影を色濃く残す芸術・文化のまち。別名「花の都市」とも呼ばれ、花の博覧会「ゲント・フローラリア」は世界的にも有名。ゲント港はヨーロッパ屈指の内陸港で、繊維、鉄鉱などの産業が発達した。聖パーフ大聖堂や1817年創立のゲント大学のほか多くの博物館や旧跡があり、中でも鐘楼やベギン会修道院などは世界遺産に指定されている。

ゲント市から市代表団が来沢

姉妹都市提携50周年を迎えた2021年から来沢が延期されていたマティアス・デクレルク市長をはじめとする代表団7名が、2023年7月4日（火）～7日（金）に金沢を訪問しました。デクレルク市長の来沢は初めてで、村山市長への表敬訪問では、今後も幅広い分野において両市の交流を深めることを改めて確認しました。滞在中は、ゲント王立美術アカデミーと交流のある金沢美術工芸大学のほか、金沢卯辰山工芸工房や金沢未来のまち創造館等を視察しました。また、ゲント市は、ユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野に登録されており、以前より交流のある金沢ジュニア・ジャズ・オーケストラJAZZ21が華やかな演奏で一行を歓迎しました。今回の代表団員のゲント王立音楽院のウェイル教授は、これまで、金沢のユースジャズキャンプ等において若手の指導にも携わってくれています。離沢前日には、両市の交流にゆかりのある市民・関係者、学生等が集って代表団と語り、一層の交流を深めました。



ゲント市代表団の表敬訪問

ゲント市へパティシエ交流団を派遣



ゲントの伝統菓子キュベルドンの実演

近年、洋菓子分野における交流を継続してきた流れを受けて、洋菓子職人同士の関係をより深めてもらうため、金岩重典・石川県洋菓子協会会長を団長とするパティシエ交流

団を2023年6月13日（火）～6月18日（日）の間、ゲント市へ初めて派遣しました。派遣中は、市内の洋菓子店13店舗及びパティシエの養成学校を視察して現地の職人や関係者と交

流を深めたほか、ゲント市役所訪問では、デクレルク市長はじめ、職人や市関係者、金沢・ゲント交流サポーターズクラブのメンバーから温かな歓迎を受けました。

ゲントマラソンへ金沢選手団を派遣

ゲント市が、若者の活躍を進める「欧州ユースキャピタル2024」に選定されたことを受けて、2023年9月に村山市長がゲント市を訪問した際、デクレルク市長より、若手ランナーをゲントマラソンに招待したい旨の発言がありました。その後、招待を含むゲント市長の親書が届けられたことから、2024年3月24日（日）開催のゲントマラソンに参加するため、3月21日（木）～3月27日（水）の日程で、澤田剛紀・石川陸上競技協会専務理事を団長とした金沢市選手団3名を派遣する予定です。

Topics

ゲント大学で着物展開催

2023年8月17日（木）～9月23日（土）まで、ゲント大学の日本学部において着物展が開催されました。展示ではプライベートコレクションから現代的な着物のセレクションが、日本学部の学生たちによるインタビュー映像とともに展示されました。金沢市の元国際交流員であり、金沢・ゲント交流サポーターズクラブ会長を務める、ゲント大学職員マリス・ホルヴァート氏が企画・運営に携わり、ルース・ヤシケ氏のコレクションのおかげにより加賀友禅も紹介されました。

ゲント市からアーティストが来沢

ゲント市のアーティストであるガイア・スフールス氏とトゥルイ・ハヌール氏が、彼らのプロジェクト『Move She Does』のため来日したのにあわせ、10月5日（木）に市役所を訪問しました。同プロジェクトでは、「女性・乗り物・解放」という主なテーマのもと、世界中の様々な女性と出会い、ストーリーを集め、今後、本を出版する予定だそうです。



作品を紹介するアーティスト

ナンシー【フランス共和国】



世界遺産登録40周年を迎えたスタニスラス広場（50周年記念式典時撮影）

提携 1973年（昭和48年）

人口 10万人 **面積** 15km²

フランス東部の中心都市で、12世紀中頃からロレーヌ公国の都として栄えた。機械、織物、クリスタルガラスなどの産業が発達しており、20世紀初頭の芸術運動アール・ヌーボー発祥の地としても有名。総合大学等があり、人口に占める学生の割合が高い学園都市であると同時に、国際的な音楽祭や国立バレエ団がある芸術都市として発展している。スタニスラス広場などが世界遺産に指定されている。

コロナ禍により中止されていた、ナンシー市とのインターン生および留学生派遣事業が4年ぶりに再開されました。

インターン生の受入・派遣

ナンシー市でのインターンのため、二本朱莉さん、長野重音さん（どちらも金沢大学）が金沢市から派遣されました。インターンは7月31日から8月25日の期間で行われ、翻訳作業や日本の福祉政策についてのプレゼンなど、様々な仕事を体験しました。

また、金沢市では、ナンシー市からのインターン生であるサムエル・ショアルフェールさんとルイ・マティスさんを同日程で受け入れました。2人は市立保育所、金沢国際交流財団、駅西消防署、国際交流課での就業体験を行ったほか、休日にはホームステイを体験しました。

〈インターン内容〉

- 7月31日 金沢到着
- 8月1日～4日 市立保育所での就業体験
- 8月5日、6日 ホームステイ
- 8月7日～10日 金沢国際交流財団でフランス語を学ぶ市民やボランティアとの交流会を実施
- 8月14日～16日 市内文化施設視察
- 8月17日、18日 駅西消防署での訓練参加や応急処置対応に関する講習受講
- 8月21日～25日 国際交流課での就業体験



駅西消防署での訓練の様子



国際交流財団でのプレゼンの様子

交換留学生の受入・派遣

金沢市からは30人目の留学生として青鷲なつ美さん（金沢美術工芸大学）が派遣され、2023年9月よりナンシー国立高等美術学校にて学んでいます。

また、ナンシー市からの30人目の留学生、ラファエル・ウローさん（ナンシー国立高等美術学校）が2023年10月より金沢美術工芸大学での留学生生活を始めました。



青鷲さん



ウローさん

Topics

金沢市立病院とナンシー大学病院との研修医等の相互派遣

医師の育成と研究を通して、医療分野における両院の科学・技術交流を促進し、姉妹都市交流を一層深めるため、2023年7月3日から31日の日程で、金沢市立病院が地域圏立ナンシー大学病院から医学生2名を受け入れ、続く9月28日から10月23日の日程で、金沢市立病院から地域圏立ナンシー大学病院へ研修医2名を派遣しました。

ナンシー国立高等建築学校がワークショップを開催

ナンシー国立高等建築学校の教員1名及び生徒11名が、2023年4月15日から23日の日程で来沢し、本市の長町エリアを対象に、金沢工業大学、東京理科大学、中国の湖南大学と共同で、金沢の新たな文化資源を発見し提案する「国際建築ワークショップ2023」を開催しました。

蘇州【中華人民共和国】



蘇州市内の世界遺産「拙政園」

提携 1981年（昭和56年） **人口** 775万人

面積 8,488km²

約2,500年前の「呉」の国の都として築かれた古都。温和な気候と美しい自然に恵まれ、古くから景勝の地として知られる。美しい庭園と寒山寺などの名所旧跡が数多く、拙政園や留園など9カ所もの庭園が世界遺産に指定されている。シルク刺繍などの特産品や食の地としても有名であるが、近年は、シルクなどの特産品のほか、近郊に日本企業を含む多くの外国企業が進出し、めざましい経済発展を遂げ、その経済力は中国国内トップ10にランクインしている。2014年12月、本市と同じクラフト分野でユネスコ創造都市ネットワークに加盟。

青少年オンライン交流会を開催！

2024年3月2日（土）、両市の青少年を対象にオンライン交流会を開催しました。金沢からは一般公募の中学生～大学生9名が、蘇州からは日本語を学ぶ高校生10名が参加しました。

昨年度の交流会では本市の伝統工芸である金箔を使った体験を行ったため、今回は蘇州の切り紙工芸「剪纸」を体験するプログラムを実施しました。縁起の良い赤紙を切って中国の伝統模様を作り上げ、額縁に飾る体験キットを蘇州から取り寄せ、参加者に事前にキットを送付しました。当日、参加者は蘇州の高校生からレクチャーを受けながら一生懸命剪纸に取り組み、被災地の復興を願いながら、幸福の象徴「龍」「春」の文字を作りました。

交流会では、日本語を学んだきっかけや、日中の好きなアニメやゲームなどについて話し、とても盛り上がりしました。



完成した剪纸作品を持って記念撮影

「蘇州市小学校・中学校硬筆コンクール」に参加

蘇州市では、漢詩を通じ、青少年に地域や文化に対する興味を高めてもらい、文化活動の発展につなげるため硬筆コンクールを行っています。今回の「第七回

蘇州市小学校・中学校硬筆コンクール」では小学生から大学生までを対象に作品を募集しており、外国人部門として金沢市立城南中学校の10名が参加しました。

コンクールの課題は漢詩の『虎丘』『楓橋夜泊』を清書するもので、この2つの漢詩は蘇州市の虎丘、寒山寺が舞台となっています。

このたび、城南中学校から参加した10名のうち1名がコンクールで見事受賞しました。受賞者には記念品が授与され、受賞作品は作品集への収録と、蘇州市で巡回展示が行われます。また、参加者全員には賞状が贈られました。



蘇州での選考会の様子

Topics

蘇州市青年連合会が村山市長を表敬訪問

2023年9月1日（金）、方芳蘇州市青年連合会主席を団長とした蘇州市青年連合会11名が来沢し、小杉龍平理事長をはじめ金沢青年会議所8名の同席のもと、村山市長を表敬訪問しました。

蘇州市青年連合会は金沢青年会議所と2005年に友好交流協定を結んでおり、以来2019年まで毎年相互訪問を継続しビジネス交流を進めてきました。2020～2022年は、オンライン会議により交流を継続されてい

ました。今回は定期相互交流の一環として来沢され、交流会議の開催は今回で29回目となります。



市長表敬訪問

全州 (大韓民国)



伝統家屋が並ぶ韓屋村の全景

提携 2002年(平成14年) **人口** 64万人

面積 206km²

「後百済」の都として千年余りの歴史を持つ古都で、李氏朝鮮を開いた李成桂の本郷としても知られる。国指定宝物の豊南門(ブンナムムン)、韓屋村などの歴史遺産や韓紙(ハンジ)、パンソリなどの韓国伝統文化が創造的に継承されていることが高く評価されている。近年は、炭素繊維産業や「韓スタイル事業」を通して先端技術と伝統が調和する経済を追求するとともに、映画映像産業、生物生命産業なども育成し、21世紀新産業都市への変貌を図っている。

全州市立図書館代表団が来沢!

2023年6月27日(火)~28日(水)、全州市立図書館代表団の6名が来沢し、金沢海みらい図書館を視察しました。全州市は個性的な図書館が多く、「本のまち」として知られており、文化施設の機能を備えた図書館の創造に向け、金沢21世紀美術館や石川県立図書館も訪問しました。



金沢海みらい図書館を視察

長としてだけでなく、市民としても嬉しく思います。」とのこと言葉をいただきました。



漆のワークショップ



禹市長を表敬訪問

「第22回金沢伝統工芸展」に4年ぶりに工芸作家を派遣

金沢市と全州市は2002年の姉妹都市提携以来、両市の伝統工芸品を毎年交互に紹介しあう民間交流を実施しています。第22回となる今回は、韓屋村内の全州伝統工芸展示館にて、本市の伝統工芸を紹介する展示会を開催し、2023年10月9日(月)~12日(木)の期間で漆芸作家2名を派遣しました。直接の交流は2018年の派遣以来4年ぶりです。

会場では漆作品、二俣和紙、加賀象嵌など80点を展示し、全州市民の方々には金沢の伝統工芸の魅力を紹介しました。

また、全州の伝統工芸である韓紙の振興のために2022年に開館した「全州千年韓紙館」にて、金沢卯辰山工芸工房の豊海健太漆芸専門員と金沢美術工芸大学の金保洋技術専門員が講師となって、漆や金箔を使ってオリジナルの「まげわっぱ」を作るワークショップを2回行い、24名が参加しました。



第22回金沢伝統工芸展

展示会のほか、滞在中に禹 范基全州市長を表敬訪問し、村山市長からの親書を手渡しました。禹市長からは「20年以上も工芸の交流が続いていることは、市

全州市代表団が来沢!

2023年11月7日(火)~8日(水)、禹 范基市長をはじめ11名が来沢し、村山市長を表敬訪問しました。

両市長は提携20周年であった昨年度にオンラインで顔を合わせましたが、直接の対面は今回が初となります。一行は金沢市民芸術村、金沢職人大学校、金沢美術工芸大学などを視察し、本市の伝統技術の保存・活用について興味深く耳を傾けていました。



市庁舎エントランスにて市長をお出迎え



金沢市民芸術村を視察

Topics

駐新潟大韓民国総領事が村山市長を表敬訪問

2023年12月15日(金)、権

相熙駐新潟大韓民国総領事が離任あいさつのため、村山市長を表敬訪問しました。

権総領事は在任中、本市と全州市をはじめ、日韓交流の拡大・友好交流の発展に努められました。



権総領事との記念撮影

大連【中華人民共和国】



大連中山広場（撮影：優異）

提携 2006年（平成18年） **人口** 609万人
面積 12,574km²

遼東半島最南端に位置し、中国東北部を代表する港湾工業都市で貿易金融の中心都市。総延長 1,900 kmにおよぶ美しい海岸線と起伏に富んだ地形に恵まれ風光明媚で活力溢れたファッションとサッカーをイメージした観光戦略都市でもある。また、従来の船舶・鉄道車両などの工業基地に加え、郊外に位置する「大連金普新区」を中心に、3,300社以上の日系企業が進出しており、先端技術の発展を目指した国際都市の建設に邁進している。（写真引用：「中国国家地理・Discover Dalian, Explore More」）

「大連ウィーク」セレモニーへ副市長が出席！

大連市人民政府が主催する「大連ウィーク」について、2024年2月26日（月）、東京で開催されたオープニングセレモニーに金沢市も招待を受け、新保博之副市長が出席しました。

「大連ウィーク」は大連市代表団による訪日交流のことをいい、大連市関係者が日本各地を訪問し、経済、文化、スポーツなど幅広い分野で日本との交流を深めることを目的としています。

今回は大連市長、大連市副市長、大連市委員会副秘書長、商務局長などの政府関係者、産業パーク等の経済関係者などが日本を訪問しました。

当日は「大連市中日友好人士懇談会」と称し、日本国内の大連市の友好都市や大連市名誉市民が一堂に会し、新保副市長は本市と大連市の交流について挨拶しました。



大連市中日友好人士懇談会



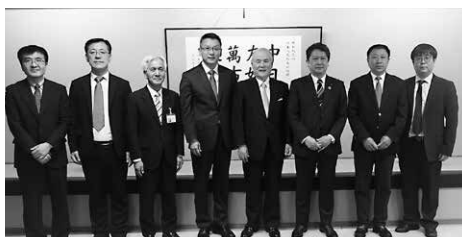
陳大連市長と記念撮影

大連大学訪問団が市長を表敬訪問

2024年2月29日（木）、王晋良大連大学共産党委員会書記を団長とする代表団が村山市長を表敬訪問し、野口弘教育長やNPO法人日本海国際交流センターの古賀克己理事長も同席しました。

一行は「大連ウィーク」のセレモニー参加後に本市を訪

れ、滞在中は提携校である北陸大学を訪問するとともに、かねてより親交の深い同センターを訪れました。



王書記らと記念撮影

Topics

中国国際貿易促進委員会大連市分会代表団が村山市長を表敬訪問

大連市で開催される「2023大連日本商品展覧会」のPRのため、孫連運会長を団長とした中国国際貿易促進委員会大連市分会代表団6名が村山市長を表敬訪問しました。この展覧会は日中両国の友好交流と経済貿易協力を促進する総合的な国際展覧会として2008年から開催され、今回で13回目となります。今回は2023年9月22日（金）～24日（日）の3日間大連市で行われ、食品や日用品から工業製品やバイオテクノロジーまで幅広く取り扱う大規模なものとなりました。



孫連運会長らと記念撮影

中国大使夫人が副市長を表敬訪問

2023年11月1日（水）、中国大使館から丁珣大使夫人が来賓として、新保博之副市長を表敬訪問しました。中国との間での市民交流を進める石川県日中友好協会では、毎年、駐日中国大使館の女性外交官を石川県へ招待し、日本の地方都市の実情に触れ、理解してもらおう参観・交流事業を30年以上続けて実施しており、今回は本市のほか、羽咋市などを視察されました。



大使夫人、県日中友好協会と記念撮影

■「かなざわ国際交流まつり2023」開催

2023年10月21日（土）・22日（日）に「かなざわ国際交流まつり2023」を開催しました。市内・県内から多くの国際交流団体（40団体）が参加し、2日間で約9,000人の方に来場いただきました。

今年で30周年目を迎えるこのおまつりは、第1回目が1993年に東南・南西アジア交流まつりという名称で始まり、交流をする地域を世界に広げながら続け、今では、市民が世界の文化、在住外国人と身近にふれあい、親しむことができる北陸最大級の国際交流イベントとなりました。

今回は、「いしかわ百万石文化祭」の一環として開催され、文化に焦点をあてて、「世界・石川・金沢の文化」をテーマとした特別企画として、「獅子舞演舞」の特別記念ステージや、「外国人フォトコンテスト～きらめく石川・金沢・世界の文化～」、「外国語の絵本読み聞かせ」、「外国の文字で自分の名前を書いてみよう」、「書道体験」、「いしかわ百万石祭2023連携企画クイズラリー」などを開催しました。

また、屋外特設ステージでダンスや楽器演奏などのライブパフォーマンスを楽しむ「ワールドステージ」や、世界各国の美味しい料理を販売する「ワールドグルメ」、世界の雑貨やフェアトレード商品を販売する「ワールドバザール」、国際交流団体の活動がわかる「パネル展示コーナー」、折り紙・水引などの日本文化が体験できる「体験コーナー」など様々な催しも行われました。

おかげさまで1日目は激しい雨にも見舞われましたが、2日目は晴れてたくさんの来場者の皆様に来ていただき盛会のうちに終了いたしました。



ワールドグルメコーナー



特別ステージ「獅子舞演舞」



特別企画

「外国の文字で自分の名前を書いてみよう」



特別企画

「外国人フォトコンテスト
～きらめく石川・金沢・世界の文化～」

■外国人子育て応援通訳ボランティア派遣

近年、国際結婚や留学生家族の増加により、金沢市で妊娠、出産、子育てをする外国人市民が増えています。日本と母国では子育ての文化や習慣に違いがあり、不安や戸惑いを感じる人も少なくありません。

金沢国際交流財団では、令和3年度から、金沢市の福祉健康センターで行われている「乳幼児健診」や「赤ちゃん訪問」、離乳食などの個別の相談や育児教室などに英語と中国語の通訳ボランティアを派遣し、保健師さんとの円滑なコミュニケーションを図ることにより、金沢市で安心して妊娠・出産・子育てができるようサポートしています。

令和5年度は約26回派遣を行い、通訳を利用される方の国籍は、インドネシア、ベトナム、中国、韓国、モンゴル、バングラデシュ、スリランカ、インド、アメリカ、ロシア、ドイツ、アフガニスタン、エリトリア、イラク、ウクライナ、フィンランドなど多岐に渡ります。

現在、登録している通訳ボランティアは、20名ほどですが、金沢市の母子保健サービスや、母子保健に関する知識や理解をより深めてもらうために、当財団ではスキルアップ研修会も開催しています。

第1回の研修会では、2023年8月19日（土）に長崎県立大学教授の李節子先生より、SDGsの目標の1つでもある「すべての人に健康と福祉を」の視点から、日本の外国人母子支援における課題や通訳者として知っておくべきことなどについてリモートでお話いただきました。

第2回の研修会では、2024年3月9日（土）に多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表である飯田奈美子氏を講師に招き、母子保健などの外国人の地域生活に根ざしたインフォーマルな通訳である「コミュニティ通訳」の特徴や、対人援助場面における通訳者の役割や倫理についてケーススタディを交えながらご講義いただきました。



乳幼児健診時の通訳の様子



研修の様子

国際交流ダイアリー

4～6月

- 4月1日 国際交流シンポジウム「世界遺産を支える伝統の技」を開催
- 4月18日～7月14日 金沢美術工芸大学でフランス・ナンシー国立高等美術学校の学生1名を受入
- 4月18日～7月31日 金沢美術工芸大学でイギリス・エディンバラ大学の学生1名を受入
- 4月26日 中国・潍坊市のユネスコ創造都市担当者3名が卯辰山工芸工房を視察
- 5月6日～10日 金沢市村山市長一行「八田技師夫妻墓前祭」に参列（台湾・台南市内）
- 5月9日～5月13日 アメリカの料理人5名が市内料亭で研修・交流を実施
- 5月17日～18日 G7富山・金沢教育大臣会合の開催に併せ、G7各国出身インフルエンサーを招請
- 6月1日 在名古屋トルコ総領事 来訪
- 6月2日 韓国・禮山郡月進会訪問団 来訪

7～9月

- 7月2日～7月19日 福岡での世界水泳選手権に向け、フランス水泳代表チームが金沢で事前合宿を実施
- 7月7日 フィリピン・バギオ七夕11祭&金沢ユネスコ創造都市展へ出展
- 7月19日 タイ・スコータイ市訪問団 来訪
- 7月28日 米国在住・「KANAZAWA-The Other Side of Japan」著者ルース・ステーブンス氏来訪
- 8月7日～8月9日 全州市議会代表団15名 来訪
- 8月15日～17日 英国人インフルエンサー来訪、YouTube発信
- 8月21日～8月24日 第36回ハルビンの夏音楽会にフルート奏者3名を派遣
- 9月11日～15日 フランス「フィガロ・マガジン」記者による金沢取材
- 9月15日 カナダからの訪日教育旅行を本市初誘致
- 9月20日～23日 米国メディア招請による金沢取材
- 9月25日～10月3日 金沢市議会代表団がフランス・ナンシー市およびベルギー・アントワープ市訪問
- 9月21日 韓国・清州工芸ビエンナーレ2023クラフトサミットに十一代大榎長左衛門氏が登壇
- 9月29日～12月26日 金沢美術工芸大学でアントワープ王立アカデミーから学生2名受入

10～12月

- 10月8日～16日 イタリア・リミニで「イタリア旅行博TTG」に出展、ローマとミラノで観光セミナー開催
- 10月11日～13日 イタリア人インフルエンサー招請 ハネムーン向け情報発信の実施
- 10月17日～10月20日 中国・景徳鎮国際陶磁器博覧会にクラフト政策課長の祝賀動画送付
- 10月20日 駐日欧州連合（EU）大使 来訪
- 10月31日 国連環境計画（UNEP）より国内唯一の「都市生態系再生モデル都市」に認定
- 11月1日～11月31日 韓国・晋州市「伝統工芸ビエンナーレ2023」に招待出展
- 11月8日～11月12日 金沢市議会代表団が台湾・台南市および台中市を訪問
- 11月17日～20日 「大台南国際旅行博」に出展
- 11月20日 タイ王国シラパコーン大学視察団 来訪
- 12月1日 台南市副市長、台南市美術館館長ら来訪（KOGEIアートフェア参加）
- 12月8日～12月11日 UAE・ドバイで開催された国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）において、都市生態系再生モデル都市・金沢の取組を紹介
- 12月13日～12月15日 フランス・パリで開催された「都市生態系再生モデル都市」ディスカッションイベントにおいて、金沢の取組を紹介

1～3月

- 1月24日～31日 「スペイン旅行博FITUR」出展、観光セミナー開催
- 2月3日～4日 米国ロサンゼルス旅行博「Travel & Adventure Show」に出展
- 2月13日 駐日スリランカ大使 来訪
- 2月14日～3月8日 アーティストインレジデンスにおいて韓国・晋州市の陶芸家受入
- 2月20日 駐日アゼルバイジャン大使 来訪
- 2月29日～3月7日 アフターオリンピック交流事業として本市の若手ウエイトリフティング選手2名、コーチ1名をフランス・パリに派遣
- 3月12日～17日 米国の大手旅行雑誌「コンデナスト・トラベラー」寄稿記者による金沢取材

自治体国際化協会派遣職員的一年

はいや ひでなり
灰屋 英成

一般財団法人自治体国際化協会（クレア）パリ事務所へ派遣され、姉妹都市交流やJETプログラムなど、日仏自治体間の交流を幅広く支援しています。海外で勤務するという貴重な機会をいただき大変感謝しています。

2023年はナンシー市と姉妹都市提携50周年の記念すべき年であり、同市で仕事をする機会に恵まれました。まずは何といても、提携50周年記念訪問団のアテンドです。専門家の方々に同行し、話をさせていただき、今回もたくさんの学びと刺激を得ることができました。両市の交流は、行政交流だけでなく、青少年交流、病院同士の交流、文化・芸術交流など、分野は多岐に渡っています。それができるのは、日仏双方の受け入れ、派遣等に係る業界団体、専門家の皆さまの深い理解とご協力の賜物であることを再認識しました。今回も温かく迎え入れていただき、交流を支え、応援してくれている方がナンシーにもいることを実感できました。個人的には、私は45周年記念事業で事務担当をしており、5年前もボランティア通訳や金沢の魅力発信に協力していただいたナンシー市在住の日本人の方々に再会することができてとてもうれしかったです。

また12月2日（土）、3日（日）にわたり、「アニメスト」に出展しました。当日は日中でも氷点下の冷え込みで、金沢よりも寒く感じましたが、多くの方が来場していました。ブースでは、ナンシー美大に留学中の金沢美大生、金沢市役所でインターンシップを経験したナンシー市の学生など、日仏学生ボランティアと協力し、金沢の魅力を発信しました。来場者からは、『来年、日本に行く予定だが、何日あれば金沢を楽しむことができるか、どの季節がおすすめか』など



事務所前で記念撮影

の具体的な質問がありました。文化体験コーナーの和菓子の食べ比べは行列ができるほど人気で、金箔貼り体験は大人も子供も真剣に取り組み大好評でした。現地の方の生の声や反応を得ることができ、大変貴重な機会になりました。

パリに到着したころは右も左もわからず、毎日緊張していました。ですが不思議なことに少しずつ慣れてきて、今では綺麗な風景や美味しいものを楽しめるようになってきました。日常生活の中で、不便、不都合を感じることもありますが、毎回課題解決に向け、考え、手を尽くすことで、柔軟性や粘り強さが養われるとともに、期待しすぎず、諦めも時には肝心だと学んでいます。このような時は日本や金沢の良さを心底実感します。一方で、休む時はしっかり休む、何事も最先端を追い求めすぎない、休日には予定を詰め込まずカフェや公園でのんびりする、個性を尊重し、何歳になっても自分が好きな服を着るなどは、素敵なフランス人の良さだと感じ、是非見習いたいと思っています。公私ともに日仏の長所を取り入れていくことが一つの目標です。

今年パリ2024オリンピック・パラリンピックが開催されます。セーヌ川やエッフェル塔周辺など、パリの中心部や世界遺産でも競技が行われます。美しいパリの景観とスポーツがどのように融合するかとても楽しみです。

残りの貴重な一年は、事務所業務に注力することももちろん、多くの人に会い、いろんなものを見聞きし、帰任後の業務に活かしていけるように積極的に過ごしたいと思います。



「アニメスト」でPRする様子

国際交流課にはベルギー、フランス、韓国、中国、イギリスの5か国の国際交流員 (CIR) が在籍しています。姉妹都市との交流や通訳だけでなく、文書の翻訳、市民向け国際理解講座、学校訪問、SNSでの情報発信など、多岐にわたって活躍しています!

Instagram (@kanazawa_cir) はCIR自身が立ち上げたプロジェクトです。ぜひフォローしてください!



日本語が話せない傷病者役として救急訓練に参加



学校訪問で文化を紹介



国際交流員による料理教室



母国の絵本の読み聞かせ

国際交流員の一年

ヴェレルン・ラーニ (ベルギー)



今年1月1日、令和6年能登半島地震が発生し、家屋の倒壊や土砂災害などがあったことで、多くの方々がとても辛いことを経験しました。心よりお見舞いを申し上げます。石川県能登地方の復活が一刻も早く来るように願っております。

今年度の仕事を振り返ると、コロナが始まってからの大きな変更を感じます。今、コロナ前の金沢国際交流員の経験をおい出すと、その半年が信じられないほど忙しかったことに気づきます。そして、今年は久しぶりに同じ程度のスケジュールを経験することができて、不思議な感じです。創作アンバサダーの3ヵ月滞在、гент市への出張、パティシエ交流、гент市長の受け入れ、オンラインではない金沢国際交流特使養成塾、かなざわフェアトレードフェスタ、国際交流まつり、幅広い分野で

の通訳、次から次へと仕事があって、交流いっぱい的一年でした。

ですが、その中で一番感動したのは、やはり、金沢マラソン2023でした。なぜなら、2019年という初めて金沢にきた年で一番大きくて、緊張して、早く来た仕事は金沢マラソンだったからです。金沢に着て3ヵ月もしなかったあの頃のマラソンの経験は、それ以来、コロナの影響でずっとできなくて、今年、国際交流員の最後の年でまた金沢マラソンに関わることができて、言葉で伝えられないほどの感動、そして、感謝の気持ちです。これほど多くの姉妹都市の人が集まり、マラソン大会のスタートと一緒に待っていて、その瞬間が近づいてくる興奮や大会後の疲れ果てた満足感をシェアすることができて.....ここで築かれた絆は、私たち全員の生涯に残ることでしょう。

今年、国際交流員として最後の年も、一緒に懸命頑張りたいと思います!引き続きよろしく願い致します。

ルベル・マシア（フランス）



Bonjour à tous! 皆さん、こんにちは。来沢して3年目で先輩になってしまったマシアです! (笑)
国際交流員として、様々な事業に参加することになりますが、姉妹都市事業はもちろんその一つです。

去年は、フランスのナンシー市と金沢市の姉妹都市提携50周年でした! 1973年10月に調印した金沢市との結びは、最も古いつながりではないですが、最もダイナミックな国際関係のひとつです。科学、文化、工芸、教育、スポーツの分野などで様々な交流を続けてきました。

そこで、2023年9月27日、金沢市から市役所、市議会、市立病院、金沢日仏協会の代表団がナンシーを訪問しました。両市長が初めて顔を合わせ、私は通訳を務める荣誉に浴して、金沢市から与えられた役割を果たしていると感じました。また、美食、金箔、能楽など、国際舞台で金沢の誇りとなっている文化的伝統の専門家の

通訳も務め、フランス姉妹都市の市民の方々にその技術と知識を披露しました。

一か月後、ナンシー市長団も金沢を訪問し、その紹介をできてとても素晴らしい経験でした。

2023年は、それ以外の事業においても、興味深いものしかなかったです。

アーティストやクラフト職人、一流のスポーツ選手などとの出会い、幅広いテーマについて意見を交換し、日仏関係を再び結びつけることを心から楽しむことができました。去年も学校訪問や料理教室などを通じて、人的交流の機会がたくさんあり、金沢の人たちと文化交流できたことをとても嬉しく思います。

だからこそ、この仕事で周りの人々から多く学びながら、これからも頑張っていきたいです。

今年1月1日、北陸は大変な自然災害に見舞われました。令和6年能登半島地震があったことで、この地域が私にとっていかに大切な場所であるかを思い知らされました。私も守っていきたいです!

これからも精一杯頑張ります。今年もどうぞ、よろしくお願い致します。

イ・ジミン（韓国）



안녕하세요! (こんにちは!)
韓国出身の、イ・ジミンです。
国際交流員として来沢したのが昨日のようですが、あっという間に2024年になりました。新年を金沢で迎えることができとても

嬉しいです。私にとって2023年は新しい経験がたくさんできてすごく意味のある1年でした。日本で仕事をするようになるとは思わなかったし、実はここに来る前には金沢という地域も知らなかったです。しかし今はすっかり金沢に慣れて愛情を持つようになり、金沢を日本での私のふるさとのように思っています。昔の姿と伝統を守り続けているところと、どの道歩いても美しい風景を見られるここが大好きです。これからも金沢を散歩しながらスマホのアルバムを金沢でたくさん満たしたいと思っています!

最近ではコロナの影響でしばらく姉妹都市との行き来ができなかったのですが、ようやく対面交流ができるようになりました。金沢市長と全州市長も直接お会いし、さらに交流を深めることができました。いろんな場面での通訳で緊張しましたが、私の通訳で笑顔で話し合う人たちの姿を見ると、やりがいを感じます。

姉妹都市提携後、毎年行われている伝統工芸品の交流では、今年、全州で金沢の工芸品を展示することができました。さらに、全州市民を対象としてワークショップも行いました。国が違っても工芸の話で共感したり盛り上がりたりして、この交流は私にとってもすごく大切になりました。たくさんの方々が国際交流の価値を知り、より活発した動きで世界がどんどん一つになって欲しいです。これからも頑張りたいと思います。2024年もよろしく申し上げます!

よういく き ちゅうごく 楊焯暉 (中国)



大家好！（皆さん、こんにちは！）中国出身の国際交流員、楊焯暉と申します。日本のアニメやゲームが大好きで、高校生の時から趣味として日本語を勉強し始めま

した。大学時代にずっと日本での生活に憧れてきましたが、コロナで実現できませんでした。金沢で国際交流員の就任が決まった2023年は、コロナ明け、初めての日本生活・金沢生活という、私にとってとても記念すべき一年でした。金沢は私の地元・洛陽と同じく歴史、工芸、伝統文化の豊かな町で、とても親近感が湧きました。

国際交流員として仕事し始めまだ1年も経っていませんが、その内容が幅広く、これまで経験したことのないものばかりでした。パンフレットの翻訳やラジオ収録から、学校訪問や特使のイベントまで、何かを発信する立

場でありながらも、学びと収穫のほうが多かったです。

2023年、特に印象に残った仕事が2つありました。一つは8月のハルビン夏の音楽会、私は通訳として奏者の皆さんに同行し、初めての出張に行ってきました。やり取りの時はそれぞれ中国語・日本語で話してから私から通訳を入れますので、相手の言語をぼんやり聞いている顔が、「あ～そういうことか！」と納得の表情になるのを見るたび、自分は人と人をつなぐ仕事をしている、というやり甲斐を実感できました。

もう一つは10月末の金沢マラソンで、私は蘇州から来た選手団を担当しました。ほとんどの時間をほかの姉妹都市からの皆さんと共に行動していたので、自分の国だけでなく、みんなの国や姉妹都市のことも知ることができて、仕事以上に大切な絆を得ることができました。

私は今、人と人・国と国をつなぐこの仕事をとても誇りに思っています。これからも自分の力で、金沢の国際交流の事業に貢献していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

エリー・ブーコック (イギリス)



Hello there! Nice to meet you! 皆さん、こんにちは！イギリス出身の国際交流員のエリー・ブーコックです。来沢してやっと半年が経ちました。長いようで、あっという間のような不思議な気持ちです。金沢という街をどんどん

知れて、とても好きになりました。歴史、文化や自然に恵まれて、毎日楽しいです。

これからも金沢の色々な一面を見ることを楽しみにしています。春の金沢と夏の花火大会や百万石祭りなどはまだ経験していないので、次の6か月も新しいことでいっぱいになりそうです。

国際交流員の仕事は幅広くて、毎日色々勉強になっています。国際交流特使養成塾ではじめて治部煮を作って、伝統の行儀「氷室の仕込み初め」に参加できました。クリスマスの期間にイギリスの文化理解講座を

開いて、金沢に住んでいる日本人家族とイギリスのクリスマスと一緒に楽しみました。学校訪問で子どもにイギリスやヨーロッパの文化を教えたり、ラジオに出演したり、料理教室でイギリスの家庭料理を作ったり…忙しくて楽しい6か月でした。

他の国際交流員と仲良く仕事できるのもとても光栄に思っています。色々な国の文化について学ぶのも楽しいですし、支え合える友達がいるおかげで、金沢で困ることは一つもないです。金沢マラソンで他の国際交流員4人と一緒に姉妹都市から来てくださったランナーとサポーターを案内したり、ランナーを応援したりしたときが、去年で一番楽しい思い出でした。

これからもたくさん楽しいイベントがあると思うので、来年度も一生懸命金沢に住んでいる方に色々な国の文化を教えて、金沢を世界に発信したいと思います。これからもよろしくお願ひします。



第50号 (2023年度・令和5年度)

2024年3月発行

金沢市姉妹都市交流委員会

事務局：金沢市都市政策局国際交流課内

TEL 076-220-2075 FAX 076-220-2069